



INSTITUTE OF SPORT SYMPOSIUM
LEGACY OF SPORT VOL.9

オリンピック・パラリンピックのレガシー

リオ2016から東京2020へ

基調講演

「スポーツの価値とその可能性」 <15:00-15:20>

鈴木大地 (スポーツ庁長官/ソウルオリンピック金メダリスト)

シンポジウム

「オリンピックとパラリンピックは何を遺すのか」 <15:20-16:30>

鈴木大地 (スポーツ庁長官/ソウルオリンピック金メダリスト)

伊調 馨 (ALSOK/アテネ・北京・ロンドン・リオオリンピック金メダリスト)

山本 篤 (スズキ浜松アスリートクラブ/リオデジャネイロパラリンピック銀メダリスト)

馳 浩 (前文部科学大臣/オリンピック) [特別ゲスト(予定)]

佐藤 満 (専修大学教授/ソウルオリンピック金メダリスト) [司会]

聴講無料

2016年10月27日(木)

14:50~16:30(延長あり)専修大学生田キャンパス10号館10301教室



主催 専修大学スポーツ研究所 sports@isc.senshu-u.ac.jp 044-911-1032

SENSHU UNIVERSITY
INSTITUTE OF SPORT

オリンピック・パラリンピックのレガシー —リオ2016から東京2020へ—



リオ2016オリンピック・パラリンピック大会が幕を閉じた。前回のロンドン2012大会と同様に日本選手の活躍は目覚ましく、連日各種のメディアを賑わせ、私たちはその活躍に大いに勇気付けられた。

「スポーツが持つ力は、夢や勇気そして感動を与えることは言うまでもない。さらに一歩踏み込み、スポーツの持つ力を社会的な価値と捉え、伝え、レガシーとしていくことは大きな意味がある。」これは、ロンドン2012大会後に行った当スポーツ研究所シンポジウム『スポーツの力を考える—スポーツを通じた社会開発—』においてテーマとした課題の一つである。あれから4年、今大会では前回大会を超えるメダル数を獲得した日本であるが、その裏側にはどのような取り組みがなされていたのだろうか。また、リオ2016大会ではレガシーとして何が得られ、それをどのように次回大会や社会へ活かしていくべきなのだろうか。

初代スポーツ庁長官として日本スポーツを牽引しソウル1998オリンピックの金メダリストである鈴木大地氏、リオ2016オリンピックにて女子選手として史上初の大会4連覇を果たし国民栄誉賞の受賞も決まった伊調馨選手、北京2008パラリンピックで日本の義足陸上選手として初めてパラリンピックメダリストとなりリオ2016パラリンピックでも銀メダルを獲得した山本篤選手を迎え、当大学教員とともに、過去大会の例を振り返りながら、東京2020大会に向けて、あるいはそれ以降の大会や社会にどのようなレガシーが期待されるか、アスリート、政策、大学スポーツの各々の立場から議論し、将来へ向けて広く提言を行ってきたい。



鈴木 大地 [すずき だいち] (スポーツ庁長官/オリンピック金メダリスト)

千葉県習志野市出身。初代スポーツ庁長官。1988年ソウルオリンピック100m背泳ぎ金メダリスト。日本オリンピック委員会アスリート委員会委員、日本水泳連盟会長、日本オリンピック協会会長、世界オリンピック協会 (WOA) 理事、日本アンチドーピング機構理事、日本水泳連盟会長 (2013年-2015年)、順天堂大学教授などを歴任し、日本におけるオリンピック・ムーブメントやスポーツ環境の整備、教育の推進に努めている。



伊調 馨 [いちょう かおり] (ALSOK/オリンピック金メダリスト)

1984年6月13日生まれ。青森県八戸市出身。中京女子大学附属高等学校 (現・至学館高等学校)、中京女子大学 (現・至学館大学) 卒。ALSOK所属。2004年のアテネオリンピックでは63kg級で優勝。以来、2008年の北京オリンピック63kg級、2012年のロンドンオリンピックの63kg級、リオデジャネイロオリンピックの58kg級で4大会連続優勝を果たし、近代オリンピック史上6人目、女子選手では初の個人種目4連覇を達成した。国民栄誉賞の受賞も決定。



山本 篤 [やまもと あつし] (スズキ浜松アスリートクラブ/パラリンピック銀メダリスト)

1982年4月19日生まれ。静岡県掛川市出身。高校2年の時にバイク事故により左足を腿から切断。卒業後に通った日本聴能言語福祉学院・義肢装具学科で陸上に会い、その後大阪体育大学に進学。2008年北京パラリンピックで、T42クラス (片大腿切断等) 走幅跳の銀メダルを獲得、日本の義足陸上選手初のパラリンピックメダリストとなる。2013年、2015年、IPC世界選手権走幅跳2連覇。2016年5月、当時の走幅跳の世界記録を樹立。100m*、200m、400m*、走幅跳*の日本記録保持者 (*アジア記録)。

馳 浩 [はせ ひろし]

(前文部科学大臣/オリンピック/専修大学文学部卒/専修大学体育会レスリング部名誉監督)

佐藤 満 [さとう みつる]

(専修大学経営学部教授/ロンドンオリンピックレスリング日本代表チームリーダー/オリンピック金メダリスト)